



札幌市立中央幼稚園

研究通信

No. 2

中央幼稚園では、札幌市の研究実践園として教育課題に応じた実践研究に取り組み、成果を保護者の方をはじめ、市内の幼稚園、保育園、小学校等に発信しています。

今回は、年中、年少の遊びの事例検討を通して分かったことを一部紹介します。御一読頂き、園や学校、家庭でのお子さんとの関わりのヒントにいただけたら幸いです。よろしくお願いします。

本園の研究テーマ

「心動かされる体験を通して、
言葉のキャッチボールを楽しむ幼児を育てる」



<年中「公園をつくろう」の事例から>



ある日、「公園をつくろう」と教師に伝えにきた A 男と B 男。教師と一緒に滑り台やブランコ、一本橋、トンネルを作る。イメージを共有しやすいようにと教師の提案で学級名と同じ「かおり公園」という名前に。興味をもった幼児がたくさん遊びに来ると喜び、降園前にはかおり公園をつくったこと、「さんぽ」の歌詞をもとに作っていること、友達がたくさん遊びにきたことを発表する。

翌日からは、戸外でかおり公園の遊びが始まる。

保育室から出てきた子たちから目に入りやすい場を作ることを教師が提案したことで、いろいろな子が興味をもって遊びに加わる。「曲がりみちね」「山も作るって言っていたよね」とたくさんの子が自分の思いを口に出しながら遊ぶ姿につながった。



検証1 ※より言葉のキャッチボールを楽しむための援助とは？

<昨年までに捉えたこと>

みんなの目に入る場所で、
かまくら作り。

・1月からはたっぷりの雪が積もるグラウンド。かまくら作りは、園庭との出入口付近のみんなの目に入る場所に！他学年の幼児が見て憧れの気持ちをもったり、作り方のコツを知らせる、招待するなど自然な伝え合いに繋がったりします。



穴を掘るのは最後がよいよ！

<この事例から・・・>

園庭の出入口付近に場を作ったこと、子どもたちのイメージが出てきたときに遊びを広げやすい場所であったことが、色々な子が興味をもって遊びに加わり、やりとりを楽しむきっかけになった。



<この事例で、
イメージの共有化につながったことは？>

<新たに分かったこと>

イメージの共有化

・同じようなイメージで遊び出したり、やりとりしたりできるよう可視化することも有効

- ★「かおり公園」という名前
- ★みんなが知っている「さんぽ」の歌
- ★「さんぽ」の歌詞カードに絵がたくさん描かれてあったこと
- ★遊びを学級活動の中で紹介するなど、話題にして全体に伝えたこと

<年少「年少児なりの主体性を願って」の事例から>



入園当初から、年少児なりに主体的に遊びを楽しんで欲しいと願いをもち、様々な工夫をしてきた教師。徐々に子どもたちは幼稚園に安心感をもち、また、教師に親しみの気持ちをもち



「幼稚園はいろいろな所で遊んで良い場所!行ってみたいところには行ってもいいんだ!」ということを感じ始め、自分の行きたい所へ、遊びたい遊びへと主体的に動く姿に。季節によって、教師が経験してほしい(気温が高くなってくると、解放感を味わいながら水・泥などの感触を楽しんでほしい!など)遊びの環境は保育室前の幼児が目につく場所に設置したり、道具の使い方を知らせたりするなどして、遊びが継続するように援助した。子どもたちは教師にとにかく「見てもらいたい!」「自分の思いを伝えたい!」「一緒に楽しんでほしい!」という思いをもつようになってきた。教師とのやりとりを楽しむ様子を教師が周りの友達に知らせることで、同じ場にいる友達と一緒に楽しむ、同じ事を繰り返しながら教師とのやりとりを楽しむ姿に繋がった。



検証1

※保育室前に環境をつくることで、安心してじっくり遊ぶことができる

<昨年までに捉えたこと>

砂のお山、みいつけた! ~保育室前の砂山~

- ・視野の狭い3歳児も気付けるよう、保育室のすぐ目の前に砂山を設置! 年少児だけの砂場で安心して、慣れ親しんだ友達と先生とじっくり自分の思いを出しながら遊ぶ姿が見られます。
- ・コロナ渦の中、遊びの場を分散することもできました。



<この事例から...>

年少保育室の出入り口の前に環境を作ったことで、そこが拠点となり、年少児が興味をもって遊びに加わり安心して、教師とのやりとりを楽しむきっかけとなった。

検証2

<昨年までに捉えたこと>

“心動かされる体験”となるための援助とは?

全力で楽しむ、喜びに共感する

- ・オーバーな表現
- ・誰もが分かるイメージを動きや言葉ですぐ表す(「ことりになあれ!」など)



<この事例から...>

子どもたちからの「見て!」「来て!」などの発信を教師が受け止め、オーバーな表現でリアクションをすることで、教師とのやりとりを楽しむ姿に繋がっている。その思いが今後教師だけではなく、友達とのやり取りに繋がっていくのではないか。

検証3

やってみたい!と思える遊びを通して、“心動かされる体験”を積み重ねることで、教師や友達に自分の思いを表す姿に繋がり、言葉のキャッチボールを楽しむ姿に変わっていくことが再度検証されました!